

案件概要書

2020 年 8 月 25 日

1. 基本情報

- (1) 国名：ネパール連邦民主共和国（以下、ネパールという）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名： 第 3 州・カブレパランチョーク郡（人口約 38 万人）
- (3) 案件名：ドゥリケル病院外傷・救急医療センター整備計画（The Project for Improvement of Trauma and Emergency Medical Centre at Dulhikhel Hospital）
- (4) 計画の要約：本計画は、ネパールの第三次医療施設の一つであるドゥリケル病院において、外傷・救急医療センターの建設及び関連機材を整備することにより、外傷・救急患者に対する医療サービスの強化を通じた保健医療サービスの質の向上を図り、もって同国の貧困削減及び生活の質の向上に寄与するもの。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ネパールは、インドと中国の間に位置しており、同国における民主主義の定着、安定と繁栄は、政治的・経済的に重要な南アジア地域全体の安定を確保する上で重要である。かかる観点から我が国は、長年主要ドナーとしてネパールを支援している。

我が国はネパールにおける基幹病院整備を含む医療保健セクターに長年に亘り協力を行っており、ネパール政府は同分野における日本の支援実績を高く評価している。本事業で支援予定のドゥリケル病院は我が国が支援した「シンズリ道路」（1996-2015 年）及び「カトマンズーバクタプール間道路」（2008-2011 年）に近接する位置にあり地域住民の高度医療サービスへのアクセス向上に貢献するだけではなく、シンズリ道路沿線地域を含む 21 郡（人口 1,115 万人）から患者を受け入れる地域拠点病院としての機能強化を果たすことが期待されており、カトマンズ首都圏以外の地方の保健医療の課題解決にも貢献できることが期待される案件である。本件を通じて、人道的側面が強い医療保健セクターにおける我が国の継続的なプレゼンスを確保することができ、人間の安全保障の推進を掲げる我が国に対する信頼感を醸成することが期待されるため、外交的意義は高い。

- (2) 当該国における保健セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

ネパール政府は国家医療政策（2019 年）において、すべての国民に対し質の高い医療サービスを提供することを目標に掲げており、当該政策の実現にあたり同国政府は「保健セクター戦略」の実施を通じて、課題解決に取り組んでいる。当該戦略の一つに、救急医療を含む公衆衛生上の緊急事態と災害への備えの強化が挙げられている。同国では車両交通の増加に伴う交通事故の増加により、2000 年から 2012 年の間に交通事故件数は約 3.5 倍（14,000 件/2012 年）に増加、外傷が死因の 10%を占め（世界平均は約 6%）、特に同国中部から東部地域での事故件数が増加している。

ドゥリケル病院は、同国東部の広域医療拠点であり、地域を支える公立の第三次医療施設の一つである。2015 年のゴルカ大地震（死傷者約 9,000 名）では、地震発生直後から被災者の受入を開始し、総数 3,679 人の治療を施すなど、災害医療の拠点と

しても機能した。また、同病院は首都と南部及び首都と北部を繋ぐ幹線道路の交差点に立地するため交通事故の救急搬送が多く（2016/17 年で 16,292 人）、経済発展に伴う食生活の変化や都市化による非感染症疾患の拡大に伴い、国内で増加する脳卒中や心臓病の救急患者も多く搬送され、機材や病床数が不足している。そのため同病院の対応能力の強化が期待されている。

本計画は、脳卒中や心臓病患者、交通事故の増加に伴い急増する外傷・救急患者に対応する施設の建設や医療機材の整備を通じて、同国の保健医療サービスの質の向上に資するものであり、同国の開発課題・開発政策並びに我が国の対ネパール国別開発協力方針の重点分野「貧困削減及び生活の質の向上」及び JICA の協力方針に合致する。また、SDGs ゴール 3（あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する）に貢献することが期待される。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

①計画内容：

ア) 施設の内容

救急処置室、外来診察室、入院病棟、手術室、ICU 等（延床面積約 5,600 m²）

イ) 機材等の内容

核磁気共鳴装置（MRI）、CT スキャン、X 線撮影装置、除細動器、手術機材等

ウ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

コンサルティング・サービス：詳細設計、入札補助、施工・調達監視

ソフトコンポーネント：納入機材の維持管理

エ) 調達・施工方法

詳細は協力準備調査で確認する。

②期待される開発効果：急増する外傷・救急患者の受入体制の強化（救急患者数：16,292 人/年→20,359 人/年、MRI 画像診断件数：564 人/年→1,120 人/年、CT 画像診断件数：3,287 人/年→6,500 人/年）により、医療サービス向上への貢献が期待される。

③計画実施機関／実施体制：所管官庁：保健人口省（Ministry of Health and Population）/ドゥリケル病院（Dulhikhel Hospital）

④他機関との連携・役割分担：特になし

⑤運営／維持管理体制：設備や機材等の運営・維持管理は、ドゥリケル病院の収益及び政府からの予算措置に基づき同病院が行う。病院経営に困難が生じた場合は、保健人口省が運営及び機材の運用・維持管理、必要な予算措置を行う予定だが、詳細は調査で確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- 他ドナーの動き：同国の保健分野ではセクターワイドアプローチが進んでおり、世界銀行、米国国際開発庁、国連児童基金、世界保健機関、ドイツ国際協力公社、韓国国際協力事業団、イギリス開発省等が保健行政、母子保健等の分野で技術協

力を実施している。

- ドゥリケル病院は、今般の新型コロナウイルス重点病院の指定を受けていることから、外傷患者と感染症患者の両方の急患受入れが可能となるような設計や制度の整備を確認するとともに、コロナ対策強化に資する支援の必要性についても調査の中で確認する。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

インドネシア共和国向け無償資金協力「西カリマンタン州公立病院医療サービス改善計画」の事後評価等では、保守技術者の不足等の制約がある中で、整備された機材の多くが技術者のネットワークを活用した情報交換等の自主的な努力と工夫により、現在も有効活用されている。本計画では、かかる教訓をいかし、ソフトコンポーネントを通じて技術者間のネットワーク構築を支援することを検討する。また、必要に応じソフトコンポーネントで基本的な保守管理の訓練を行うとともに、現地代理店との間で保守契約を締結し、維持管理体制を確保する。

以 上

[別添資料] 地図



出典：Google Map

[別添資料] 写真



出典：Google Map



出典：JICA



出典：ドゥリケル病院